

学生紹介（自己紹介）

私たち8人は工学力教育センターの情報セキュリティプロジェクトに所属しています。情報セキュリティプロジェクトはCTF（Capture The Flag）というセキュリティ技術を競い合う大会に出場し、上位入賞を果たすため、日々情報セキュリティ技術を学習しています。

プログラミングやソフトウェアに大変興味がありますので、今回のキャノンイメージングシステムズ株式会社様の訪問を楽しみにしていました！代表して2名の学生の自己紹介をさせていただきます。



プロジェクトリーダーの大滝凌です。webサイトの実装の安全性や、通信上の暗号化の安全性について学んでいます。出身は新潟県で、ゲームが大好きです！



プロジェクト副リーダーの石田健悟です。webアプリケーションで発生する脆弱性や、C言語のようなシステムを記述する言語で生じやすい脆弱性を学んでいます。出身は新潟県で、日本酒とワインが大好きです！

交流会の様子

今回はキャノンイメージングシステムズ株式会社様を訪問し、新潟大学の先輩である星野様・金子様にインタビューをさせていただきました。キャノンイメージングシステムズ株式会社様は主にキャノン製品の組み込みソフトウェア（ファームウェア）、制御ソフトウェア、アプリケーションソフトウェア、ハードウェア設計といった様々な分野の開発を行っている会社です。

交流会ではインタビューの他に、開発現場の見学や、最新技術のデモなども行っていただきました。当日の内容について皆様にお伝えします！



交流会でインタビューを受けてくださった
星野様（右）・金子様（左）

1. 新潟大学工学部に進学した理由と学生時代に熱中したこと

大滝：なぜ新潟大学に進学されたのでしょうか？

星野：私は三条市出身なので、当時目指せる大学で一番偏差値の高かった新潟大学を選びました。また、物理や数学に興味があったので、電気電子工学科を選択しました。

金子：新潟で就職したいという希望がありました。そのために地元で、自分に合った偏差値の新潟大学に進学しました。あとは、情報系に興味があったので電気電子工学科を選びました。

石田：大学時代に熱中したことはありますか？

星野：私はバンドや麻雀に熱中していましたね。レジャーという面もあるのですが、そこで作られる人間関係、情報交換などといったコミュニケーションの場としての面も重要だったのかなと思いますね。

金子：麻雀と飲み会（笑）と、あとは、私もバンドが中心でした。MMCというサークル（今もあります！）でイベントがあったのでそこに注力していました。楽器はベースとドラムをやっていました。ベースは大学に入学する前からやっていましたが、ドラムは大学に入ってから始めました。ちなみに今も子供と一緒にバンドを組んでベース弾いています。

2. 社会人になる中で大きな変化を感じたこと

大滝：社会人となってから、学生時代との違いをどこに感じたのでしょうか？

星野：関係する人の広さですね。学生時代の人間関係は研究室内で収まっていたんですけど、企業に入るとその技術の専門の人がいて、その人たちを巻き込んだり、自分の発言ですごい数の人が動きかねないといった場面があります。こういう経験から、今では自分の発言とか行動に気を付けるようになりました。

金子：まず、決まった時間に起きなければならないこと（笑）。それは冗談として、製品を作るだけでなく、動作するかどうかのテストを徹底的にしなければいけないことや、使う人のことを考えて製品を作らなければならないこと、後々のメンテナンスのことを考えなければいけないことが大きく変わった点だと思います。学生の研究の時は、作って研究して論文を書いて「おしまい。」でしたが。その部分は大きく変わったと思います。

3. 様々な業務を行ってきた中で、印象に残った仕事

石田：様々な業務に関わる中で、特に印象に残った仕事はどのようなものがあったのでしょうか。

星野：私はエンジニア、マネージャ、どちらとしてもあるんですが、エンジニアとしてはプロジェクトの開発を行った時に、それ自体が新規のプロジェクトだったので、自由に自分のアイディアなども取り入れて、実際に製品に落とし込めたのは良い経験だったなと思いますね。マネージャとしては50人くらいの部下がいたことがありまして、その業務管理とか様々なフォローとか、マネジメントを適切に行うことで、プロジェクトをやり遂げることができたのも良い経験だったなと思います。

金子：私はそれまで主にディスプレイの開発を行ってきたんですが、それがいきなり主力製品のプリンタ開発のリーダーとして呼ばれた時がありました。自分自身に技術的な知見がなく、さらにプロジェクト的にも様々な問題を抱えていた中で、どうやってチームを引っ張っていくか悩みながらの業務でしたが、メンバーにヒアリングを丁寧にして課題点を見つけ、それを少しずつ改善していく中で、チームを円滑に動かせるようになったのは良い経験だったなと思います。

4. AI と業務の関係

大滝：これからAIがどんどん発達してくると思いますが、AIと業務の関係性について教えてください。

星野：要望をまとめて簡単な仕様書を生成してもらったり、簡単な試作レベルであれば、AIは使用することが多くなりました。

石田：では、そのなかで人間が介入する余地などはどの点にあるとお考えですか？

星野：品質保証などの点ではやっぱり人間が必要だなと考えますね。たとえばAIが実際にソースコードを生成するにしても、それがきちんと動作するかどうかをテストするのは、やはり人の目が必要になると思いますね。あとは、どういうモノを作るのか、何か課題なのかといったところを考えるのは人間になるとも思いますね。

金子：私の開発している組み込み製品のファームウェアだと、新しいソフトウェアを一から作るというよりは、既存のソフトなどに機能を追加するという業務も多いです。この既存のソフトウェアのコード、仕様をすべてAIが読み込んで、既存のソフトウェアと整合性を取りつつ新しいコードを生成することは難しいので、そこは人間が残ると思いますね。

5. キヤノンイメージングシステムズ株式会社を目指す学生へのアドバイス

大滝：キヤノンイメージングシステムズ株式会社を目指す学生にアドバイスがあれば教えてください。

星野：まず、本社自体が新潟駅にかなり近い立地にあつて、通勤しやすいことがポイントですね。これからの長い人生を考えると、住みやすい・働きやすい環境はとても重要だと思います。加えてキヤノン製品の幅広い分野で開発を行っているので、様々な技術的な課題がありま

す。自分自身の技術や知識を生かして、こういった技術的課題に比較的自由に挑戦できる環境がありますので、ぜひ積極的にキャノンイメージングシステムズ株式会社を目指してほしいなと思います。

金子：上記に加えて、会社に入社してからは、半年ほど研修期間があつて、その間に技術的なスキルやビジネススキルを学習する期間があります。そこで丁寧な基礎学習を行いますし、研修期間が終了しても部署内で研修機会は多くあります。研修体制が整っているのも身構える必要はありません。ぜひ積極的にチャレンジしてもらえればと思います。

6. おわりに

交流会の開催に当たりまして、ご協力、ご尽力いただきました星野様、金子様、五十嵐様に感謝申し上げます。お忙しい中、ご対応いただきありがとうございます！

